

早わかり！ 道徳科の授業作成手順 ～内容項目「規則の尊重」 「雨のバスの停留所で」を例にして～

1. 指導内容(内容項目)を確認し、ねらいを検討する……学習指導要領解説を読む



該当の学年だけでなく、小学校低学年から中学校までを見通して、内容項目についての理解を深め、ねらいとする道徳的価値について、授業者の明確な考えをもちましょう。

解説では、(1) 内容項目の概要 と (2) 指導の要点が示されています。

例えば、中学年の「規則の尊重」においては、「約束や社会のきまりの意義を理解し、それらを守ること」とあり、『**社会のきまり**』が一つキーワードとなっています。この段階では、身近な生活の中で、約束や社会のきまりと公共物や公共の場所との関わりについて考えることが少ないことを踏まえ、指導に当たっては、約束や社会のきまりの意義やよさについて理解し、それらを守るように指導していくことが大切です。



2. 指導内容(内容項目)やねらいに関わる児童生徒の実態を明らかにする



本時の道徳科の授業では、児童生徒の実態に基づき、どの**道徳性の諸様相**に焦点を当てて授業をするのか決めるようにします。

「きまりを守る」ことについて、今の児童の現状を把握します。これまでの教育活動や指導場面を振り返り、その結果として、児童のよさや課題を確認します。

例えば、「きまりは生活の自由を制限するもので、肯定的に受け止められていない」という実態があるならば、ねらいは、「きまりを守ることが、みんなが気持ちよく生活できるようになることに気付かせ、社会のきまりを守ろうとする**心情を育てる**」等が考えられます。

あるいは「周囲に目が向けられず、自己中心的な言動により、きまりが守られていない」という実態があるならば、ねらいは、「きまりの意義を理解し、みんなのことや周りの状況を考えて、きまりを守ろうとする**判断力を育てる**」等が考えられます。

このように児童の実態を把握することで、本時で学ばせたいことが明確になってきます。

学校教育における道徳性の捉え方(道徳性の諸様相)

| | |
|---------|---------------------------------------|
| 道徳的判断力 | それぞれの場面で善悪を判断する能力 |
| 道徳的心情 | 道徳的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪をにくむ感情 |
| 道徳的実践意欲 | 道徳的判断力や道徳的心情を基盤とし、道徳的価値を実現しようとする意志の働き |
| 道徳的態度 | 道徳的判断力や道徳的心情に裏付けられた具体的な道徳的行為への身構え |

3. 教材を吟味する……児童生徒に考えさせたい道徳的価値に関わる事項を検討



読み物教材では、道徳的価値に関わるどんな問題が起きているのか、その出来事に道徳的価値がどのように関わっているのかをとらえ、ねらいに関わって、児童生徒に一番考えさせたい場面を想定し、発問等を考えます。

ねらいとする道徳的価値(規則の尊重)についての、授業者の明確な意図、児童生徒の実態をもとに、教材「雨のバスの停留所で」をどのように活用し、どのような学習を行うのかを明らかにします。

「**心情を育てる**」
ことをねらいとした場合

いつもと違う母親の横顔を見ながら、自分の行動を振り返る場面。

中心発問 よし子は、母親の横顔を見ながら、何を考えていたのでしょうか。

「**判断力を育てる**」
ことをねらいとした場合

よし子は軒下に順番に並んでいたが、バスが来るとバス停に走っていくという場面

中心発問 よし子の行為は、いけないことなのか。

※次ページでは、「心情を育てる」ことをねらいとした学習展開の例を示しています。

4. 学習指導過程を作成する(新大分スタンダードとの関係も含む)

1～3を通して、指導の意図が明確になったら、授業の指導の流れ(学習指導過程)を考えていきます。


| 学習の段階 | 学習活動や主な発問 |
|-------|---|
| 導入 | <ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の興味関心を高め、ねらいとする道徳的価値に向けて動機付けを図る段階 <p>○実態や問題を知る めあて きまりやマナーについて考えよう</p> |
| 展開 | <ul style="list-style-type: none"> ねらいを達成するための中心となる段階 中心的な教材によって、ねらいとする道徳的価値についてじっくり考える段階 ねらいに対する思いや願い、課題を培うために、現在の自分を見つめる(設定しない場合も考えられる) <p>○教材を活用して道徳的価値を理解し、よりよい生き方を考える</p> <p>中心発問につなげるための基本発問 よし子は、どんな気持ちでバス停にかけよったのでしょうか。</p> <p>中心発問 よし子は、母親の横顔を見ながら、何を考えていたのでしょうか。</p> <p>※児童の考えを深めたり広げたりする補助発問を準備しておく</p> <p>まとめ ・世の中には目に見えないきまりやマナーがあることについて ・周りの人の気持ちを考えながら行動することの大切さについて</p> |
| 終末 | <ul style="list-style-type: none"> ねらいに対する自分なりの思いをあたためたり、更に深く心にとどめたりして、今後の発展につなぐ段階 <p>○よりよい生き方の実現への思いや願いを深める</p> <p>振り返り みんなのことを考えて約束やきまりを守っているか振り返ろう</p> |

※学習指導過程にあるめあてや中心発問(課題)、まとめ、振り返り等は、一例です。

ねらい、実態、教材、学習指導過程に応じて、適切な指導方法を選択し、工夫しましょう。

教材を提示する工夫(例)

お話の読み聞かせをする前に登場人物や状況などを少し説明しておくと、児童は理解しやすくなります。

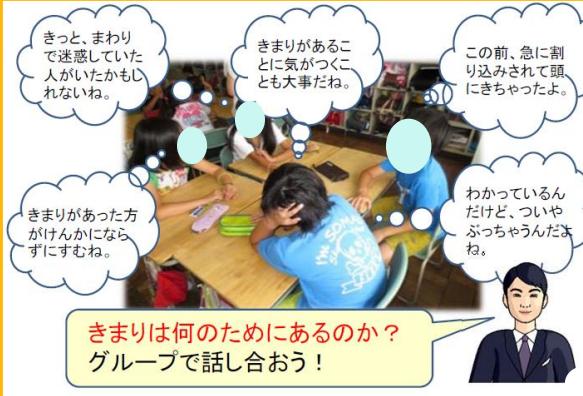


よし子とお母さんの状況

バスを待つ乗客は、のき下で雨宿り

雨宿りしてバスを待つ
朝から強い雨と風
おみやげを持っておばあさまへ

話し合いの工夫(例)



きつと、まわりで迷惑していた人がいたかもしれないね。

きまりがあることに気がつくことも大事だね。

この前、急に割り込みされて頭にきちゃったよ。

わかってはいるんだけど、ついやぶっちゃうんだよね。

きまりがあった方がけんかにならずにすむね。

きまりは何のためにあるのか？
グループで話し合おう！

「NITSオンライン研修(道徳教指導者養成研修)」資料より

5. 本時において、期待する児童生徒の学習状況を明確にする(評価の着眼点)

道徳科の評価は、道徳性が育ったかどうかを評価するものではありません。道徳性につながっていくような学習状況がみられたかどうかを把握します。学習状況とは、道徳科の目標に示されている学習活動における児童の発言や記述等のことです。本時における期待する学習状況を明確にし、評価の着眼点を設定しましょう。

【ねらいの構造】※特に決められた形式はありませんが、次の3つの要素で書くことが考えられます。

「学習の中心的内容」・・・母親の横顔をじっと見つめるよし子について

「学習活動」・・・自分事として考えたり、善し悪しを判断したりする学習活動を通して

「道徳性諸様相」・・・きまりやマナーを守ろうとする心情を育てる。

ねらいの3つの要素のうち「学習活動」の部分を評価の着眼点にします。

【評価の着眼点】

よし子の行為について、自分事として考えたり、きまりやマナーを様々な視点から発言したりしている。

【評価の方法】(いつ、どのようにして)

・グループ学習の様子や全体での発言から見取っていく。(机間指導と意図的指名) ・ワークシートの記述から見取っていく。